

環境水路の生きもの調査

かんきょう すいろ

県の工事で造った環境水路。今日はここで、「環境水路の構造のこと」、「環境水路を流れる水のこと」、「環境水路に住む生きものについて勉強しました。

①環境水路の説明

「環境水路」とは、水路の壁に間伐材を使った階段状の壁と、水路の底に玉石という大きな石を敷いた「生きものたちが住みやすく、環境にもやさしい水路」です。



②農業用水の学習会

みんなが普段飲んでいる水道水と環境水路を流れる農業用水は同じところからやってくる。飛騨川の水を白川取水口で取り入れ、地中に埋めてある管を通して水は運ばれてきます。



③水質の調査

環境水路の水質を調べてみよう。パックテストで、PH(ペーハー)、COD(シーオーディ)、アンモニウム(アンモニア)の3つの項目を調査しました。

調査結果

- PH: 7あたり⇒中性 (水道水と同じくらい)
- COD: 8以上⇒必要な酸素が多い (水が汚れている)
- アンモニウム: 0.5以下⇒アンモニウム少ない



④生きもの調査

環境水路にタモ網を持って入り、生きものをたくさんつかまえました。ドショウ、カワヨシノボリ、カワニナ、コオイムシ・・・



⑤生きもの学習会

みんながつかまえた生きものを種類ごとに数を記録しました。その後、安藤志郎先生から生きもの種類や水質調査の結果から、「環境水路の水はややきれい。もっと生きものを増やすには、もう少しだけ水をきれいにするといいな」とお話ししていただきました。



⑥生きもの放流

つかまえた生きものは、もとの環境水路に帰してあげました。



説明者

- ①可茂農林事務所
- ②木曾川右岸用水土地改良区連合
- ③美濃加茂市役所
- ④、⑤安藤志郎先生

